

Technical Journal of Advanced Mobility

次世代移動体技術誌

査読要領

Technical Journal of Advanced Mobility 編集委員会

1. 論文誌の目的

一般社団法人日本 UAS 産業振興協議会（以下、「JUIDA」という。）は、UAS（無人航空機システム）、UAM（空飛ぶクルマ）、UTM（ドローン運航管理システム）、AMS（次世代移動体システム）等次世代移動体に関連する技術の発展および普及のために、革新的、独創的な研究成果を公表することを目的として「Technical Journal of Advanced Mobility（次世代移動体技術誌）（以下、「本誌」という。）」を刊行する。本誌は、JUIDA が発行する英和混在のオープンアクセスジャーナルで、オンラインで随時発行されている。オンラインの記事は、掲載と同時に誰もが閲覧できる。

本誌は、UAS、UAM、UTM、AMS 等に関する論文の投稿を主に募集している。理論的または実証的な研究、技術開発に限らず、社会科学的成果、経済産業的成果、あるいはそれらを統合した知見の発表を期待している。

本誌の読者は、UAS、UAM、UTM、AMS 等次世代移動体の研究を行う学界・産業界の研究者、エンジニア、学生、その他の関心のある人々を想定している。次世代移動体業界唯一の技術誌として信頼度と価値を上げ、異分野技術交流の中核となって新たなシナジーを産み出し、産業界へ貢献することを目指している。

2. 査読の目的

投稿原稿の内容を客観的に評価し、本誌に掲載される原稿としてふさわしいものであるかどうかを判定するための資料を提供することを目的として査読が行われる。Technical Journal of Advanced Mobility 編集委員会（以下、「編集委員会」という。）は、査読に伴って見出された問題点や不明な事項について、著者に照会、または修正を求めることがある。ただし、原稿の内容に対する責任は本来著者が負うべきものであり、その価値は一般読者が判断すべきものである。

3. 査読プロセス

(1) 査読方式

本誌はシングルブラインド方式の査読を採用している。個々の原稿についての査読員名および査読内容は一切公表しない。

(2) 査読プロセス

- ① 本誌に投稿された原稿に対し、編集委員会は一次審査を行う。一次審査を通過した原稿は、編集委員会が指名する査読者によって審査が行われる。
- ② 原稿の種別のうち、「技術論文」、「技術報告」、「総説」については2名、「レター」については1名の査読者が選定される。
- ③ 一次審査において、技術論文として投稿された原稿がレターとして判定された場合、著者はレターとして投稿または投稿取り下げを選択することができる。
- ④ 査読者は審査の結果を報告書として編集委員会に提出し、編集委員会が原稿の採否を決定する。編集委員会は著者に対して原稿に関する照会、または内容の修正を求めることがあり、原則1回までとする。
- ⑤ 著者は3ヶ月以内に回答し、修正後の原稿を再提出する。編集委員会は、修正後の原稿を査読者に送付してフィードバックを受けるか、あるいは修正原稿に編集委員会や査読者のコメントが反映されているかを編集委員会自身で評価する。
- ⑥ 編集委員長は、各原稿の掲載に関し最終決定を行う。

(3) 編集委員会の役割

編集委員会のメンバーは、査読におけるアドバイザーの役割を果たし、最終判定を行う。編集委員長が投稿原稿の著者である場合は、編集委員会のメンバーが最終的な掲載可否の判断を行う。

4. 査読者

査読者は、専門知識、評判、査読者としての経験などを考慮して選出される。

5. 査読の方法

査読は、投稿原稿が当該分野においていかなる位置づけにあるか、新しい観点からなされた内容を含んでいるか、研究・技術成果の貢献度が大きいかなど、等の点について以下の項目に照らして客観的に評価し、報告書にまとめて編集委員会に提出する。

(1) 新規性：内容が公知、既発表または既知のことから容易には導き得るものでないこと

- ① 研究の主題、内容、手法に独創性があり、現象の解明に大きく貢献している
- ② 産業界、社会に重要な問題を提起している
- ③ 技術者の教育・人材の育成に新たな貢献をしている
- ④ 創意工夫に満ちた貴重な技術的検討、経験が提示されている
- ⑤ 時宜を得た主題について総合的に整理し、新しい知見と見解を提示している

(2) 有用性：内容が学術上、産業上、その他実用上何らかの意味で価値があること

- ① 研究・技術の成果の応用性、有用性、発展性が大きい
- ② 研究・技術の成果は実務または今後の実験、調査等にとり入れられる価値を持っている

- ③ 問題の提起、試論またはそれに対する意見として有用である
- ④ 実験、実測のデータは研究、実用化等の参考として寄与する
- ⑤ 教育企画・人材育成上への取り組みに対する有用な成果を含んでいる

(3) 信頼度：内容に重大な誤りがなく、また読者から見て信用のおけるものであること

- ① 重要な文献が落ちなく引用され、公平に評価されている
- ② 従来からの技術や研究成果との比較や評価がなされ、適正な結論が導かれている
- ③ 実験や解析、あるいは、計画や設計などの条件が明確に記述されている

(4) 完成度：内容が読者に理解できるように簡潔、明瞭、かつ、平易に記述されていること

- ① 全体の構成が適切であり、目的と結果が明確である
- ② 既往の研究・技術との関連性は明確である
- ③ 文章表現は適切であり、全体的に冗長になっていない
- ④ 図・表等の数が適切でありわかりやすく作られている

6. 問合せ先

事務局および編集委員会宛の問合せは、下記の係に連絡すること

一般社団法人日本 UAS 産業振興協議会

事務局 テクニカルジャーナル担当

住所：〒113-0033 東京都文京区本郷 5-33-10 いちご本郷ビル 4 F

TEL：03-5244-5285

E-mail：journal@uas-japan.org

2020年5月1日制定

2024年3月1日改定